

青春
21文字
メッセージ

はじめに

琵琶湖に沿って走る、沿線に学校の多い京阪電車石坂線の駅数21にちなんだ「青春21文字メッセージ」入選作品をご紹介します。全国から若者たちを中心に応募があるこの事業、10年を超え「21文字」と言う新様式の文芸表現が定着してきました。2017年の受賞作品を、駅の沿線の魅力を市民ライターが集めた情報とともにお届けします。受賞作品は大阪の町のそこかしこに登場します。若者らしい胸キュンの作品がたくさん。「21文字に出会える町大津」へどうぞお越しください。





京阪石山坂本線とは

石坂線（正式名称…石山坂本線）は、大津電車軌道株式会社により大正2（1913）年3月1日大津（現・浜大津）―膳所（現・膳所本町）間が開業したのが始まりです。その後、昭和2（1927）年1月21日には太湖汽船株式会社を合併（琵琶湖鉄道汽船株式会社を設立）するなど順次路線を延ばしていき、昭和2年9月10日現在の姿である坂本―蛸谷（現・石山寺）間が開通しました。そして、昭和4年4月11日京阪電気鉄道株式会社に合併しています。

終端の坂本―石山寺間 14.1 kmを片道30分余りで運行。石坂線の利用者は1日約3万5000人。

朝夕は通勤通学の足として、昼間は沿線市民のかけがえのない足として、2両編成の小型電車がコトコトと走っています。

地元では、「いしざか線」「いっさか線」と親しげに呼ばれていて、電車が走る町にしかない風景、匂いは、人々の心にいつまでも残っています。町の名わき役である電車、次はあなたのどんな場面で登場するのでしょうか。



町を訪れる方々に、ぜひとも紹介したいと思う「こと、人、もの」を地元の「市民ライター」たちが自分の足を使って探しました。それぞれが地域情報誌や自身のブログなどで地元の情報を発信し続けている方々です。松尾芭蕉、百人一首、大津絵、膳所茶、琵琶湖岸など大津にまつわるユニークな題材たちです。

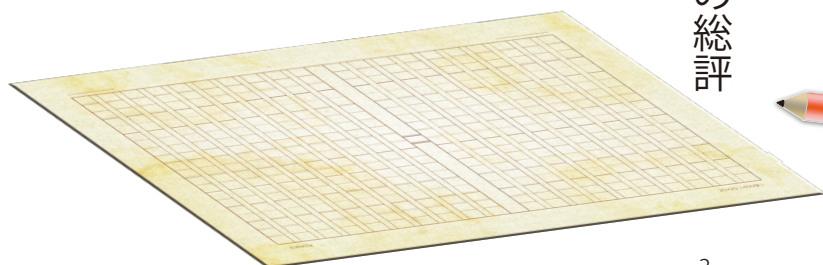
電車が好きな人、沿線の景観が好きな人、歴史が好きな人、生活者として大津の利便性を紹介する人。思いはそれぞれですが「地元を愛すればこそ」の思いに溢れた記事が集まりました。写真もプロではないですが各自が撮影したことで拘りが伝われば嬉しいです。

この情報を片手に大津を歩いて、訪問者の方がまた新たな発見をして情報発信してくださることも願っています。

11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
錦駅	膳所本町駅	中ノ庄駅	瓦ヶ浜駅	栗津駅	京阪石山駅	唐橋前駅	石山寺駅	目次	京阪石坂線21駅路線図	はじめに

22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12
穴太駅	滋賀里駅	南滋賀駅	近江神宮前駅	皇子山駅	別所駅	三井寺駅	浜大津駅	鳥ノ関駅	石場駅	京阪膳所駅

42	41	33	32	25	24	23
あとがき	俵万智さんの総評	入選作品	審査員コメント	優秀賞・入賞作品	坂本駅	松ノ馬場駅



石山寺駅

岡蘭美千代



京阪電車石坂線の終点「石山寺駅」下車。

石山寺の方へ向かおうとしてすぐ目に入るのが朱の鳥居です。ここは、白菊大明神・白鬚大明神が祀られている稲荷神社。京阪電車の社員さんの名前も掲げられてあり、安全にご利益があるのか、大



見事な桜並木が並ぶ参道を行き着くと、出迎えてくれるのは歴史を感じる石山寺の山門

津線とも関係が深い事を感じます。
春、石山寺までの参道は見事な桜並木となります。

「花の命は短くて」、タイミングが合わずに時が過ぎると桜の季節が終わってしまふ。そんな時は、石山寺駅前で比較的最長い間花を咲かせる遅咲きの八重桜も楽



駅前にある八重桜は遅咲きで長い間花を咲かせてくれる

しめます。石山寺参拝前にのんびりとベンチに座って英気を養うもよし、帰り際にのんびりとお茶でも飲むもよしでしょう。
石山寺は、初春には梅、春は桜、晩春には躑躅（つつじ）、初夏は菖蒲...と目に美しい花が次々と咲き誇り、秋には紅葉の名所となります。参拝のあとは、名物しじみ飯で腹ごしらえ、門前茶屋でおしゃべりと、楽しいひとときが過ごせます。



参拝のあとは、ゆっくりと門前でおしゃべりをして過ごせます



石山寺駅前稲荷神社。とても小さな神社ですが、朱の鳥居が気持ちをひきしめてくれます

唐橋前駅

岡蘭美千代



唐橋駅を下車するとすぐにある踏切には、「瀬田の唐橋」、「旧東海道」の標識があり、どこことなく風情を感じる風景が並ぶ



旧東海道沿いにある「たにし飴」の看板は、風景になじんだ趣がある



昔ながらの趣を感じる東海道を通るには通行が必須な「瀬田の唐橋」



旧東海道界隈には、近年まで和菓子屋・茶店、ヴォーリズ建築がありましたが、今ではこの店だけが当時の雰囲気を残しています



現在は美しいフォルムを持つ橋へと変わり交通量も多くなりましたが、長く使われ続けている擬宝珠がその歴史を感じさせてくれる



こんなに
線路が交差している
ところがあるんだね



6本の線路を一気に跨ぐ鉄橋を走る京阪電車

京阪石山駅は、ＪＲ石山駅との区別のために「京阪」と冠がついています。この駅は、京阪大津線の中で唯一のＪＲ琵琶湖線新快速との連絡駅。2005年までは130メートル程離れた石山寺方向にカーブした場所にホームがありました。現在、雨に濡れることなくＪＲに乗り継ぐことができます。

ペストリアンデッキでは、地元自治会が没後300年を前にした1993年に建立した松尾芭蕉像がお出迎え。切符売り場の横には大津観光協会、居酒屋、バスターミナルへとつながっている主要駅です。

駅のペストリアンデッキでは、この地にゆかりのある松尾芭蕉の銅像がお出迎え



また駅前には、かつて「石山銀座」と呼ばれた商店街が旧東海道沿いに伸び、昭和の香を感じさせる店が建ち並んでいます。

浜大津方向から、京阪石山駅に入る手前、ゴーという音がしてＪＲと交差し、ＪＲの線路、石山駅構内を眼下に見下ろすことができます。鉄道ファンならずとも、この風景は圧巻です。

岡蘭美千代



粟津駅 - 京阪石山駅では JR の線路が見下ろすことができる



バス路線ともなっている旧東海道の商店街。かつては映画館もあった



粟津駅を琵琶湖方面に歩くとある、緩やかなカーブの旧東海道

粟津駅を下車してびわ湖方向に真っすぐ歩きます。最初の信号の右方向へゆるやかにカーブの続く道は旧東海道。道沿いには、近江八景「粟津の晴嵐」の名残をわずかに残す松の木を見ることが出来ます。

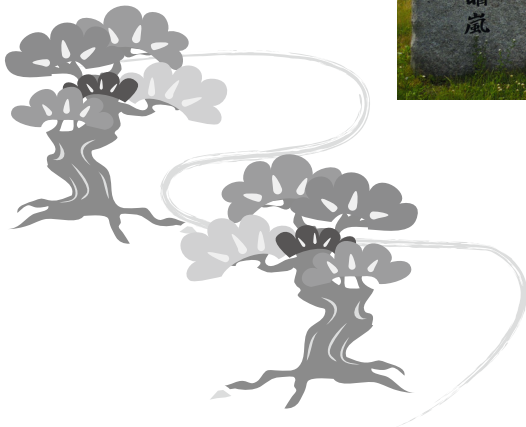
旧東海道の瀬田から膳所にかけて、琵琶湖岸に松並木が続き、「晴れた日の嵐」という特異な自然現象に松がなびく姿が

粟津駅

人々の心を捉えたのでしょうか。現在は、さらに湖岸へと進み瀬田川と琵琶湖の河川管理環境の看板がある所をさらに進んだ先の整備されたなぎさ公園に「粟津の晴嵐」が復元されています。松の木を背にびわ湖を眺めれば、時の流れを忘れてしまいそうです。



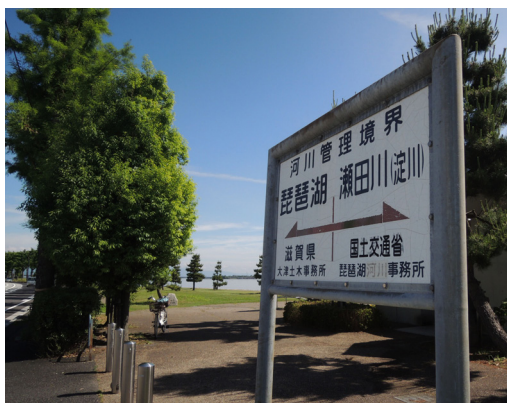
なぎさ公園に復元された「粟津の晴嵐」を案内する石碑



湖岸の木が曲がってるけどそんなに風が強いんだね...



岡蘭美千代



意外に知られていない瀬田川と琵琶湖の境界



境界あたりから水辺を眺めれば、少しずつ対岸が遠くなっていく様子を感じることが出来ます

瓦ヶ浜駅

梅沢郁子

篠津神社から曲がり町家風の家並みを抜けると、建物は残っていないが勢多中番舎跡の小さな勢多口跡の碑が、一般家屋に紛れて目立たないが建っている。気をつけないと見過ごしてしまいそう。北の大江口、南の瀬勢多口の2力所に惣門が置かれ、城下を通る人を監視していたとか。城下や都の警護に徹底していたことがわかる。

そして、瓦ヶ浜駅から東へ向かって徒歩約5分のところに蘆花浅水荘（ろかせんすいそつ）がある。落ち着いた門構え



勢多中番舎跡の小さな勢多口跡の碑。一般家屋に紛れて目立たないので、気をつけないと見過ごしてしまうのでご注意



江戸中期に一度途絶え、大正時代に復興した膳所焼の伝統を伝える「膳所焼美術館」では、抹茶も楽しめる

からは、新緑に光る楓が見え秋には紅葉する。ここは明治から昭和初期まで京都画壇で活躍した日本画家、山元春挙が大正期に自ら設計し建てた別荘。書院造りに茶室を点在させ数寄屋造りを基調とし、趣向を凝らした竹づくしの間や2階には暖炉を備えた洋間形式のアトリエもあり、遊び心のある春挙の世界が広がる建物だ。庭は今では湖岸道路に遮られているが、かつては琵琶湖を借景とした名庭園だったとか。

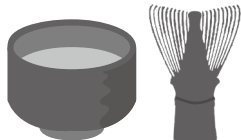
瓦ヶ浜駅を下車し線路沿いに細い道を

2分ほど歩くと膳所焼美術館がある。江戸時代の初期より膳所藩のお庭焼きとして、また遠州七窯の一つとして茶人の間では愛されてきた。江戸中期に一度途絶えたが、大正8年（1919年）地元膳所の廃窯を惜しむ岩崎健三や友人の山元春挙の尽力もあり復興。美術館の奥主（おくぬし）梅沢さんは、「復興して約100年

を迎えるが、膳所焼の伝統を伝えるとともに気軽に抹茶を楽しむ普段使いの茶器づくりを目指していきたい」と言う。展示室に並ぶ水差しや茶入れは、たおやかで端正な左右対称の薄口で鉄釉をかけた黒味を帯び、伝統を感じさせる。中には「山元春挙」が絵付けした作品も。美術館には手入れの行き届いた新緑の庭もあり、苔深い庭を眺めながら、独立した茶室では膳所焼でお抹茶もゆつたりと楽しめる。



京都画壇で活躍した日本画家、山元春挙が大正期に自ら設計し建てた別荘、蘆花浅水荘



中ノ庄駅

梅沢郁子



今も膳所城下の雰囲気を残している土塀の残る通り

中ノ庄駅から西に二筋目の土塀の残る通りは、今も膳所城下の雰囲気を残している。旧東海道が直角に曲がることを案内する直角に曲がる道路表示は、中ノ庄駅から瓦ヶ浜駅への途中のものだがほかにある。それらは、外部からの侵入に備えた城下町特有の町づくりのために、筋違いの道、袋小路など多い。

中ノ庄駅から東に5分ほど歩いた旧東海道沿いにある篠津神社。歴史は古く表門は明治5年（1872年）膳所城の北

大手門を移築したもの。重厚な作りで往時の膳所城をしのぶことができる。神社



数カ所に見られる、旧東海道が直角に曲がることを案内する道路表示

の参道は長く本殿脇には大きな楠2本がそびえ、風格のある神社だ。

中ノ庄駅を下車し東に徒歩約2分、旧東海道に面して老舗の「亀屋廣房」の看板が目に入る。江戸時代創業の京菓子の老舗「亀末広」から1941年、のれん

分けをして開店し、以来琵琶湖や膳所城に因んだ菓子作りをしている。今年5月に新しくなった「ふやき煎餅 近江八景」は、これまでとは原料を変えて近江の羽

二重餅粉100%にし、「おいしが、うれしが」と文字通りすべて滋賀県産を使用している。口にするサクツとして、

ほのかな甘味と味噌の味がミックスされて口中に広がる。ほかに黄身餡焼き菓子の「丹保の菊」や膳所城の別名「石鹿城」から名を取った「せきろく」、膳所藩に因んだ「膳所城六萬石最中」もある。

「売ってよかったではなく、お客様に買ってよかった」といわれるお菓子づくりを目指し、常に進化し続けるこの「研究熱心な和菓子屋さん」に何度でも足を運びたくなった。お菓子をいただきながら、往時の膳所城に思いを馳せるのもいいものである。

「売ってよかったではなく、お客様に買ってよかった」といわれるお菓子づくりを目指し、常に進化し続けるこの「研究熱心な和菓子屋さん」に何度でも足を運びたくなった。お菓子をいただきながら、往時の膳所城に思いを馳せるのもいいものである。

いものである。



旧東海道に面した和菓子の老舗「亀屋廣房」



「亀屋廣房」で販売されている「ふやき煎餅近江八景」



膳所城の北大手門を移築した篠津神社。重厚な作りで往時の膳所城を偲ぶことができる



膳所本町駅

梅沢郁子

膳所本町駅を下車して、東に約1分の

ところに膳所神社はある。神社の表門は膳所城の門が移築されたもの。本瓦葺きの高麗門が遺構だ。新緑の木々におおわれた境内に、膳所城の面影を感じさせてくれる。そして、膳所本町駅を下車し琵琶湖に向かって約6分ほどで膳所城跡公園に着く。膳所城は慶長6年（1601年）関ヶ原の合戦後最初に作られ、相模川河口の膳所崎（ぜぜがさき）に築かれた城だ。別名石鹿（せきろく）城。本丸は四層を備え琵琶湖に突き出た水城で



膳所神社の鳥居の奥には、膳所城の面影を残す、膳所城から移築された本瓦葺きの高麗門がある

江戸時代からの膳所茶を復興させた「富永園茶舗」



あった。明治3年（1870年）4月諸藩に先駆けて廃城願いを提出。湖に浮ぶ優美な城は取り壊された。陸続きとなつた本丸跡は膳所城跡公園として整備され、湖畔に当時がしのばれる石垣がわずかに残っている。園内を進み湖畔に出ると真つ青な湖の向こうに近江富士がくつきりと見える。代々の藩主が見た雄大な景色はどんなだったのか、心がなごむものではなかったか、思いをはせることができるところだ。現在は釣り人が糸を垂れたり、お弁当を広げたり市民の憩いの

場になっている。

膳所本町駅から琵琶湖に向かって徒歩約1分、膳所神社の向かいにあるのが「富永園茶舗」。「富永園」の歴史は長いが先代より茶の販売をしている。江戸時代は膳所藩城下で琵琶湖を望む柿ヶ坂の一带には緑の茶園が広がり、良質のお茶を産



「富永園茶舗」で販売されている、膳所茶。黒船の絵があらわれた、パッケージはどことなく異国情緒を感じる



膳所城がしのばれる膳所城跡公園にある「膳所城跡」の石碑

出していた。このお茶にまつわる史実を知った店主が、ぜひ当時の膳所茶の復興をしたいと思い、試行錯誤。香ばしいお茶の生産に励み、20年ほど前に往時をしのぶにふさわしい茶を復興。膳所茶のパッケージには黒船の絵をあしらった「JAPANESE TEA」と刻印されて店頭に並んでいる。ペリーが黒船で開国を求めて来航した時に献上されたお茶でやや強い香り、さわやかな渋みと自然で野性的な風味は、何かホッとすると安らぎを与えてくれる。ペリーの逸話と共に時代をタイムスリップするような気分だ。

錦 駅



琵琶湖岸に建つ世界的建築家・丹下健三氏設計のびわ湖大津プリンスホテル

錦駅から琵琶湖に向かって歩くこと約15分。湖岸に立つ高層ビルがびわ湖大津プリンスホテルである。世界的建築家である丹下健三氏設計で、一際高くそびえ立っているが、琵琶湖の景色に馴染んでいる。外観だけでなく中身も同様で、高級感を備えつつも、旅行者だけでなく地域にも愛されているホテルである。

ここでは、琵琶湖や大津ならではのものを宿泊客に楽しんでもらえるように、琵琶湖クルーズのセットプランや、袴をはいて「がるたの聖地・大津」を巡るプラン、琵琶湖を自転車で一周する人気の「ビワイチ」を楽しむためのレンタ

びわ湖
大津プリンスホテルって
ゴージャスだね



びわ湖大津プリンスホテル 37 階に新しくオープンしたビュッフェレストラン「Biona」は琵琶湖を見渡しながらかき食いできる

サイクル付きのプランも用意されている。

2019年に30周年を迎えるために、現在客室などの改装も進められている。37階に新しくオープンしたビュッフェレストラン「Biona」は、地域の人も人気。地元野菜を取り入れたメニューや、立命館大学教授監修の健康的メニューもある。

家族連れの宿泊客や地域の子供も参加できるイベントも多数企画されており、夏休みには「子供応援プロジェクト」として職業体験ができる。また美しいプールとプールサイドでのバーベキューも人気。

新山友希美

宿泊も食事イベントも楽しめる大津にはなくてはならない存在ではないだろうか。



初夏、びわ湖大津プリンスホテル近くの湖岸なぎさ公園プロムナードは、約 50,000 株のシバザクラのピンクのじゅうたんに包まれる

錦駅改札を出て左手（西）に100mほど歩くと相模川がある。橋から左（北）に川沿いを見ると、道の真ん中に大きな銀杏の木がある。室町時代草庵を営んだ禅僧がこの地を霊地とし、湖上交通の目印となるように植えられたと伝えられている。切っただめとされ、道や家並みもこの樹を避けて作られている。左奥の湖方面に目をやると、そびえ立つびわ湖大津プリンスホテルが見える。



北向地藏尊

すぐ近くには、お参りする人が絶えない「北向地藏尊」がある。謂れは定かではないそうだがご利益は確かなものだと、地藏堂の前の「お好み焼き」の店主は語る。「ほかに店が無いせいか、プリンスホテルへの道を尋ねてくる人が多い」のだそう。地域の自治会が地藏さんの管理をされており大変丁寧に祭られている。毎年節分には、家内安全や無病息災祈願の護摩法要が山伏によって執り行われる。



道の真ん中にあるイチヨウの木

京阪膳所駅

新山友希美

石場駅と京阪膳所駅の中間に位置し、それぞれの駅から徒歩10分のところにある地域密着型の「西武大津店」が最近力を入れているのは、地域の子育て支援。5階の子供用品を扱うフロアには、地域の子供や親のためのスペース、育ママセンターが設置されている。訪れた親子が成長でき、また交流できる場を目指してつくられたこのセンターは、平日でも一日100組ほどの利用者がある人気のスポット。

円形のスペースの中央で子供が遊び、



地域密着型の「西武大津店」

それを親が周りから見守ることができるようにつくられている。大津が湖の町であることをヒントに、同じく湖の多い北欧をコンセプトにしたデザインがちりばめられている。また、天井を見上げると、グリム童話が描かれてあり、何の話か見つけるのも楽しい。800冊もの絵本や木のおもちゃなどは担当者が1つ1つセレクトしたもの。おままごとコーナーのつくりや、ソファの高さにいたるまで、こだわが見られる。



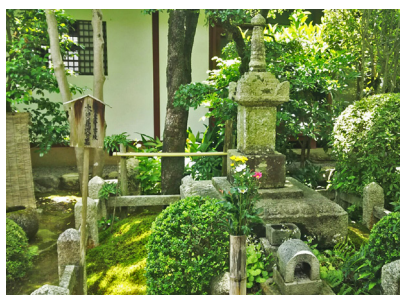
木曾義仲公を奉る「義仲寺」の朝日堂

また、京阪膳所駅より湖岸に向かって約5分、住宅街の中に静かにたたずんでいるのが「義仲寺」。義仲寺はその名のとおり、木曾義仲公ゆかりの寺で、この地で討ち死した義仲公の亡骸が埋葬されている。

義仲公が亡くなったあと、ここに美しい尼僧が草庵を結び、その尼僧が「われは名も無き女性」と答えたとの言い伝えから、その庵は無名庵と呼ばれたが、その尼僧は実は義仲公の側室巴御前だった

といわれ、巴寺とも呼ばれた。鎌倉時代後期には、義仲寺と呼ばれていた記録が残っている。

江戸時代になって、この地を愛した俳人芭蕉翁は、無名庵を頻繁に訪れ、遺言としてここに葬るように言ったことから、義仲公の墓の横には、芭蕉翁の墓もある。芭蕉翁を奉る翁堂の天井には伊藤若冲の「四季花卉」の図を見ることが出来る。



「義仲寺」の木曾義仲公の墓



「義仲寺」のもととなった草庵を結んだといわれる巴御前の塚

ひっそりとしたお寺で
心が癒されるね...



石場駅

京阪石場駅で下車して琵琶湖ホールに向かうとき信号で立ち止まると、信号待ちの人が雑草取りや花から摘みをしている姿を見かける花壇が傍らにある。

もともとは、京阪石坂線の各駅を、乗客や市民の交流を目指すコミュニティプラットホームとして2002年に設置された花壇だ。紫式部ゆかりの打出の浜と言っことで船と港に見立てた石を配置し、「コムラサキシキブ」などが植えられていることを「紫の庭」という。



「紫の庭」と言われる石場駅にある花壇は、近くで信号待ちをしている人達の目を楽しませてくれる



ホールに向かう左手にある「コラボし

が」には、足元に波をかたどった瓦の前に可憐な花が植えられた「さざ波の庭」。ホールを眼前にして左手を見やると、琵琶湖を背景にして4つのカフェが軒を並べる「なぎさのテラス」前に、蒼い琵琶湖と空を借景として多彩な花が目と和ませる修景花壇「式部の庭」がある。「西洋ジュウニヒトエ」「シャクナゲ」「アジサイ」などで四季を楽しめる。歩を進め湖岸に出て、遊歩道を右手に進むと「び

ふくいみちこ



紫の道を象徴する「ムラサキ」の華やかな花

わ湖ホール」のホワイエの眼下に位置するのが「源氏の庭」。これらの庭は、1000年ほど前、打出の浜から若狭へ旅立ち、後に「源氏物語」を記した紫式部にちなんだものだ。

「源氏の庭」は、源氏物語の54帖を形どった「源氏香」がテーマで、大津に關係のある源氏と空蟬が逢坂の関で出会う「関屋」、大津祭源氏山「須磨」などゆかりの形をタマツゲで刈込花壇として作庭。その間に絶滅危惧種、希少種と言われる「ムラサキ」「フジバカマ」など、物語にゆかりの花々を植栽している。多

数の関係者の協力により2009年に3つの庭を作庭。2002年の紫の庭と合わせて4つの庭が生まれた。

メンテナンスを市民で行っていることも特徴で、「石場駅」を最寄とする企業団体、地域住民、商店街など17の団体からなる「石場クラブ」が、年数回の草引き、枝の刈込、花苗植え等を行っている。周辺企業でも会社の前の花壇を主に「紫色の花」を植栽。石場駅をおりたら「なぜか紫色が目がつくなあ」と思いながら歩いていくと最後に「びわ湖ホールの源氏の庭に種明かし（花壇の由来）がある」と言っ仕掛けの、風雅な道だ。



地元の人が集う「源氏の庭」

島ノ関駅

ふくいみちこ



線路際の石垣は昔の琵琶湖岸のもの

島ノ関駅に降り立ち、脇の道を山側（南）に向かうと滋賀県庁（国登録有形文化財）の重厚な建物に突き当たる。手前には奈良時代創建と言いつ天孫神社があり、秋の祭礼「大津祭」は湖国三大祭の一つで、曳山行事が国指定文化財となっている。東海道など江戸の古い町並みも残る東西の道筋と交差している、ゆったりした時間の流れを肌で感じる町だ。



大津港の舟入の一つだった「小舟入り常夜灯」

線路を隔てて湖側に立ち、県道18号（通称…湖岸道路）沿いのフェンス内の線路に目を見やると石場駅から黒っぽい大きな石が直線で埋め込まれていて、浜大津方面まで続く。この石は琵琶湖岸の石垣のもので、なんと線路際までが湖！だったのだ。隣の石場駅との間には「小舟入川橋」という小さな橋があり、「鐵道省」の記載が残されている。湖の入り江をまたいで国鉄（現京阪）の線路が先にでき、今も残る大津港の舟入の一つだった「小舟入り常夜灯」の位置まで琵琶湖が入りこんでいた。対岸の草津から野菜や米を



湖の上を電車が走っていた名残は今では花壇になっている

積んできて、大津のまちなかに入り、家々から当時金肥と言われた屎尿を持って帰る小さな「肥え船」が、この橋の下を往来していたと古老から話を聞いた。湖の上を電車が走っていた名残で地形的に線路の下が低くなって残っており、今は花壇などになっている。

戦後、湖岸の埋めたてが進み国道161号線、琵琶湖文化館、のちにびわ湖ホール、ホテルなどが次々と建設され近代文化を誇る街となった。中でも湖上

にそびえる5階建ての琵琶湖文化館は、昭和36年（1961年）に開設。博物館、水族館、植物園、園内プールがそろった超近代的な複合施設だった。屋上のトンボが話題で、開館当時は、夜にトンボの目が点灯され「灯台」の役目も担っていた。琵琶湖博物館（1996年竣工）ができるまでは淡水魚の水族館として親しまれていた。現在は閉館しているが、法隆寺の夢殿を模したと言われている博物館部分には「国宝・重文を含む近江の優れた仏教美術を中心とした文化財」を収蔵している。この収蔵品と博物館機能は「新生美術館」に移転継承される。

奈良・江戸が残る町、そして電車の線路を隔てて近代の文化が息づく街。まさに線路自体が、時間を超える「時間旅行・タイムトリップ」の駅ともいえる存在だ。



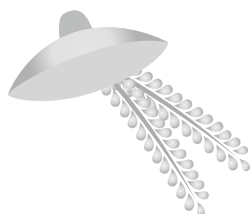
琵琶湖文化館。左が夢殿を模した博物館

浜大津駅

ふくいみちこ



江若鉄道の跡地を活用した大津絵の道は「明日都浜大津の藤娘の図」から始まる



若江鉄道の鉄橋を活用した大津絵橋の煉瓦づくりの橋げた



地元ならではの大津絵のマンホール



浜大津駅のすぐ近くには浜大津港が



京阪電車は4両編成で先頭から最後尾が見えることでも知られている

浜大津駅で電車を降りると、改札への階段で大きな「大津絵」が出迎える。そして、改札を出て琵琶湖を眺めると眼下に「大津城跡」の碑。豊臣秀吉が築城し、琵琶湖上に天守閣がそびえた水城だった。最後の城主、京極高次がこの大津城に籠城したが、関ヶ原の合戦で家康に勝利をもたらしたとされ、数年前の大河ドラマ「江」でも注目を浴びた。左手には「明日都浜大津」があり、壁面の「藤娘」の図から「大津絵の道」が始まる。大津絵の道は、昭和44年に廃線になっ

た「江若鉄道」の跡地に遊歩道として整備された。建物（明日都浜大津）の中を廃線跡が通っているという構図で、陸橋にも大津絵とその説明がある。陸橋を地平に降りるとカラーの大津絵マンホール。車止めにも大津絵に大津ゆかりの芭蕉の句を添えた陶板がはめ込まれている。遊歩道は、住宅の間を縫うように走っていた鉄道線路の名残で住宅が接近し、敷かれた石畳にも「大津絵」の陶板タイルが埋め込まれている。さらに歩を進めると疏水にかかる「大津絵橋」は欄干が

大津絵の鬼と藤娘で構成。大津絵橋は江若鉄道の鉄橋を活用したもので、橋げたは「煉瓦づくり」だ。大津絵の道は長等公民館の前まで石畳が続く、大津市で最初の歩行者専用道路である。



江戸時代に流行歌であった「大津絵節」にふりをつけた「大津絵踊り」の稽古場風景

三井寺駅

三井寺駅の傍、疏水取水口から北海道を南進し長等神社に向かう参道で右折すると、左手に「大津絵の店」がある。市内唯一の大津絵専門店で、高橋松山師の工房とギャラリーでもある。

大津絵の店から商店街の方向に足を進

め、かつて花街として大変賑わいを見せた「柴屋町」に入ると「大津絵踊り稽古場」という看板が目に残る。江戸時代、日本を席卷する流行歌として「大津絵節」は「浪花節」と人気を競っていた。大津では、「大津絵節」にふりをつけ、面をつけて踊る「大津絵踊り」が伝統芸能として受けつがれている。

アーケードのある商店街各店舗に入ると「大津絵が船板に書かれた額」「木臼に書かれた弁慶」など、各店所有の自慢の大津絵が買い物を迎えている。商店街ではマンホールの柄も「大津絵」だ。町中の大津絵を探しながら、浜大津駅に向かうと京津線と石坂線が交差する辺りに位置する「三井寺力餅」では2階に大津絵ギャラリーがある。「大津絵煎餅」「落雁」「あられ」など、大津絵を冠したお菓子も多種ある。

町中の生活に溶け込み、ひっそりしかし存在感を持ち風景の中であちこちに

ふくいみちこ



(右上) 大津絵煎餅〈大忠堂〉
大津市観音寺 8-17 077-522-3204
日曜祭日定休 営業時間 9:00 ~ 18:00

(左上) 大津絵あられ〈中西永生堂〉
大津市長等 2-8-34 077-522-6544
日曜祭日定休 営業時間 11:00 ~ 18:00

(右下) 大津絵落雁〈藤屋内匠〉
大津市中央 3-2-28 077-522-3173
日曜祭日定休 営業時間 9:00 ~ 18:00

(左下) 大津絵おどり〈鶴里堂〉
大津市京町 1-2-18 077-523-2662
日曜祭日定休 営業時間 9:00 ~ 18:00

大津絵の包みの中には、
シンプルな箱にはいつ
た大津絵柄の落雁が

ちりばめられている大津絵は、江戸時代寛永年間（17世紀前半）東海道筋の大谷・追分で売られていた民画で庶民に向けての仏画としてスタートした。「仏画」が「世俗画」として広まる中、近松門左衛門の浄瑠璃などにも取り上げられたこともあ

り「文化」と「商品」が情報メディア（出版などの押しを受けながら、しだいに文化そのものを大衆化させていく）で結びつく。まさに「江戸時代のメディアミックス」そして「ゆるキャラの元祖」と言えるだろう。

大津絵は
お菓子にも
なっているんだね



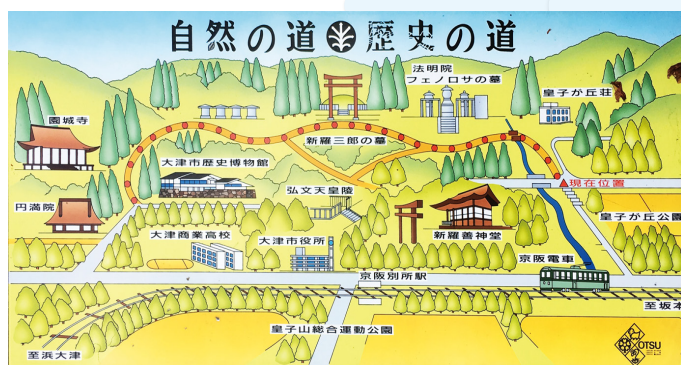
別所駅



境内の奥、杉木立の中に建つフェノロサの墓

天台宗園城寺（三井寺）の寺院の一つで享保8（1723）年に開かれた「法明院」。三井寺から山裾の東海道自然歩道を歩いて行くこともできるが、別所駅から歩くと行きやすい。大津市役所の横の少し急な道を10分ほど進むと、少し開けた道路に出る。その路傍の「法明院」石碑がある小径に入り石段を登ると門があり、本堂へと続く。途中には「不許葦酒肉入山門」と記された背丈を超える石

地域の歴史を感じる道案内板



「法明院」の入口であることを示す石碑

フェノロサも見たであろう法明院庭園から見える雄大な琵琶湖の風景



碑があり、律院であることを示している。ここは、フェノロサの墓があることで知られる。フェノロサは、明治時代に日本美術を欧米に紹介したアメリカ人で、法明院当時の住僧桜井敬徳律師について受戒している。墓は、境内の奥の山麓に杉木立の内にある。彼は庭園からの雄大な琵琶湖の景色を愛し、遺言によりこの

木村浩一

また、壬申の乱（672年）で大海人皇子（後の天武天皇）に敗れた大友皇子（明治時代になって弘文天皇と追称）の陵墓「弘文天皇陵」が、別所駅前の大津市役所の建物の裏手にある。地図には名もあるが通りからは全く目立たず、こじんまりとして入り口も分かりづらく訪れる人も少ない。大津京に遷都した天智天皇の第一皇子でありながら25歳で最期を遂げた皇子は、その地に「皇子山」として名を残している。法明院帰りに立ち寄ってみたい処だ。

地に墓を残した。彼が見た日本。今はビルが立ち並び、湖岸線は途切れ途切れとなっているが、境内の静寂は時を忘れさせ、いつまでも佇むことができる。



大友皇子がひっそりと眠る「弘文天皇陵」

皇子山駅

木村浩一

皇子山駅は、JR湖西線大津京駅との乗り換え駅。近くに公園、球場、体育館などの施設がある。そして、京阪石山坂本線でも乗降客が多い駅だ。皇子山の地名は、別所駅の項でも述べた大友皇子に由来する。この駅の石山寺駅方面の改札口の横に大きな掲示板がある。そんなに大きな駅ではないので結構目立つ。そこ

には「皇中きつぷ〇月号」と題された壁新聞が貼られている。近くにある大津市立皇子山中学校の学校新聞で、切り絵や手書きの文字で手作り感満載だ。1ヶ月毎に貼り換えられている。この学校は校区が広く、京阪電車を使って通学している制服姿も見かける。生徒会が中心に作成しているようで、記事は主に学



改札口横に設けられている皇子山中学校の掲示板

校内での出来事だ。春は新入生を迎えるの行事、秋は文化祭の様子など四季折々のものから、学校でのゴミや挨拶への取り組みなど多岐にわたっている。中学生の子を持つ家庭以外では、なかなか知るこ



手作り感あふれる「皇中きつぷ」

とのできないことだ。

学校でも、最近は管理が厳しくなり閉鎖的になっていくなかで、地域とのつながりを模索しているようだ。そんな中で地元住民が利用している駅での情報発信は、生徒と地域とのコミュニケーションづくりに一役買っている。

話は変わるが、皇子山駅で珍しいのは



ゴムタイルでできた皇子山駅のホーム

ホームや通路の舗装。コンクリートやアスファルトが一般的だが、ここはゴムタイルが全面に張ってある。歩いていて足に負担が少なく、雨などで濡れても滑らない。こけるようなことがあっても痛くないし、物を落としてもクッションとして受け止めてくれる。電車の車いすスペースの位置を示すマークは、違う色のゴムタイルを切り抜いてはめ込んでいる様で色鮮やかだ。全国の駅に普及してほしいと思う。

こじんまりとした
駅だけど
乗り換えには
要の駅なんだね



近江神宮前駅

木村浩一

大津京を開いた天智天皇を祀った「近江神宮」が、最近の競技かるたブームで注目を集めている。火付け役は、映画にもなったアニメ「ちはやふる」。

この境内の奥、木立の中に2階建ての「近江勸学館」がある。かるた競技会場として、かるたの甲子園として名を馳せ、



近江勸学館の玄関



競技かるた会場を模した「なりきり写真撮影場所」

自由に見学ができる。玄関横には競技かるた「なりきり写真撮影場所」として、競技に使用した畳とかるたが用意されている。その畳の縁は擦り切れており、対戦の爪痕を残している。実際、畳の消耗は激しく常に入替を強いられるらしい。

普段は宿泊施設や貸室として利用が可能だ。少人数用に10畳の部屋が2階に3つ、中に入ると和風旅館と変わらない。ここには80畳の大広間があるのが特徴だ。もちろん宿泊もでき、林間学校や学

校のクラブ合宿、企業の研修で利用されることが多い。ヨットやボート部など琵琶湖が近くならではの利用者もある。

近江神宮を散策すれば、四季折々の自然、清々しい空気に包まれる。わが国の時刻制度の基となった漏刻を眺め、静寂の中時の流れを感じる。大きな時代の流れを見つめるにはとっておきの場所だ。

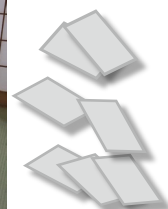
かるた大会場前に置かれた案内表示



近江神宮境内にある天智天皇ゆかりの漏刻



宿泊施設としても利用可能な2階にある10畳の和室



南滋賀駅

木村浩一

南滋賀駅から山手に10分程坂道を登ると民家が途切れ、林の中、小さな社が石段の上にある。大伴黒主神社だ。"大伴黒主（おおとものくろぬし）"は歴史や和歌に詳しい方なら知っている名前で、平安時代前期の六歌仙の一人である。六歌仙とは、僧正遍照、在原業平、文屋康秀、喜撰法師、小野小町と大伴黒主。紀貫之



大伴黒主神社の鳥居と参道の石段

が古今和歌集で挙げた六人のすぐれた歌人のことだ。壬申の乱で敗れた大友皇子の末裔との説もあり、この地志賀の郡司を務めた豪族であった。生没年は不詳だ。

社の守りは、近所の方々が行っている。毎日お洗米や口ウソクをお供えし、手入れも行き届いている。当番表を見せ

てもらったが、やはり大伴姓が多い。社に歌人を思わせるものは看板くらいで、近くの民家の中に大伴黒主の墓があると聞いた。地域の守り神として永く崇められているようだ。

話は変わるが、和歌といえば「小倉百人一首」が有名だ。大津は百人一首に登場する人物や所縁の地が20近くある。1番の天智天皇や逢坂の関など、歴史の積み重なりと交通の要所に由来するもの

とされている。このような地に居を構え



手入れの行き届いている本殿

た黒主だが、六歌仙の中でただ一人百人一首に選ばれていない。なぜだろう。彼は都から離れた山村で雅やかな貴族文化とは縁遠く、この地に根付いた暮らしに努めたのではないか。鎌倉期に入り、彼の中央での名は聞こえなくなったが、この地の有力者として名を成した。質素な神社ではあるが、今なお地域の祭神として祭られる様子を見ると、彼の歌人ではない本来の姿を見ることができた気がした。



改札口やスロープのない無人の南滋賀駅

ホームが歩道？歩道がホーム？石山坂本線は、この辺りは県道が並行して走っている。結構交通量が多い。南滋賀駅の坂本行きホームは不思議だ。歩道を歩いて行くとホームに出て、進むとまた歩道に戻る。無人駅で改札口もなく、スロープもない。究極のバリアフリー構造だ。

滋賀里駅

梅沢郁子



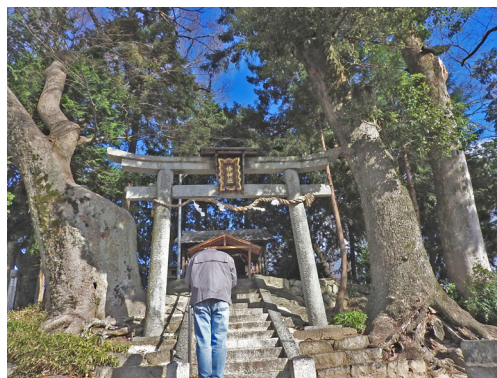
駅を降り立つとすぐに目にはいる「毎日牛乳」の看板。他に高い建物が無いのでよく目立ちます

滋賀里駅を下車して琵琶湖に向かって坂を下ると、「毎日牛乳」という牛乳びんの形をした7mの巨大な看板が目に入ってくる。牛乳びんの広告塔を持つ「毎日牛乳滋賀工場」の工場長に、工場の稼働時期がいつからかなどたずねると、この広い平板な地は戦後米軍の飛行場の滑走路だったという。

かつての様子を知りたいと「新大津市史」を読むと、この場所は明治初年以來陸海軍の軍用地として皇子山から唐崎あたりまで拡張されてきたところ。戦後は「キャンプ大津」としてこの約35万坪の広大な面積の大部分は米軍に接收され使用されていた。昭和32年から返還が始まり、この跡地の再活用をめぐる議論が沸騰した。滋賀県や大津市などの調整が実現し「毎日牛乳滋賀工場」として誕生したのは昭和36年だったという。

牛乳びんの広告塔は全国の「毎日牛乳」の各工場にシンボルとして設置されているものという。滋賀工場では給食用牛乳を主に一日約20万本を生産している。学校からの工場見学も積極的に受け入れて、子供たちに牛乳についての知識を広めていくことも大事な役割と思っていると工場長は張り切っていた。

滋賀里駅から北に向かって500mくらい、滋賀里4丁目の踏切から山側に倭



倭姫を祀ったとされる神社の石の鳥居

(しどり) 神社の鎮守の森が見える。神社に着くと鳥居を挟んで左右にケヤキとクスノキの見事な巨木がある。大津市の保護樹木にも指定されている。

伝承では天智天皇の皇后・倭(やまと)姫を祀った神社とされている。この地が赤土だったことから土地の人々からは「赤塚の明神さん」と親しまれている。月一回お供え物をする「さんぺいさん」という当番や、毎夕お灯明も灯し続けて



春には見事に花を咲かせる桜の木

地元の人々が大事に守っている。神社の前を通る人はごく普通に祠に向かって手を合わせて行く風景が見られる。

鳥居をくぐって階段を進むと湖が遠望でき、創建当時はさぞや碧い湖が広がっていただろうと往時が偲ばれ、心が安らいだ。



穴太駅

黄緑・緑・青緑

京阪石坂線沿線の、まだ古い街並みの残る、穴太駅。松ノ馬場駅。坂本駅を素晴らしい陽射しの中歩いて行きます。

JR唐崎駅から山手に入ります。旧道沿いは、昔ながらの白壁と瓦屋根、イマドキのローコスト住宅にはない風情・雰囲気があり、とても落ち着いた街並みです。



旧街道に佇む落ち着いた昔からの風情が残る街並み

ひっそりと落ち着く盛安寺本堂東側の庭



そうして、本日のお目当てである穴太の盛安寺まで、街並みを眺めながら歩きます。旧道なので、車1台ぐらいいしか通れない狭い道もありますが、歩くに気持ち良く、切り妻屋根や入母屋の美しい和瓦の並ぶ家々が、とても良い風情を醸し出します。落ち着いた昔ながらの街並

みを歩きます。目的地の「盛安寺」へ着きました。

穴太衆積みの石垣が美しく、向こうには比叡の峰々が見えています。観光客は一人もいません。本堂の東側のお庭には梅の木もあり、太鼓楼の前には立派な枝垂桜が1本あります。春になれば、その美しい花が咲き誇ることでしょう。また、境内には鐘楼もあり、釣り鐘がありました。刻を知らせる懐かしい響きのある音を聞かせてくれるのでしょうか。

お庭への入り方が解らないので、社務



街道途中にある「盛安寺」の案内

所で伺い、本堂に上がり、客殿への廊下を渡り、南側の枯山水のお庭を拝見します。

その枯山水のお庭、お寺のパンフレットによると、「庭の南に築山をもうけ、その内側にサツキ・ツツジを植栽、一帯は美しいスギ苔でおおわれ、多くの石が配置されています。天台真盛宗の不断念仏を唱導する道場にふさわしい聖衆来迎曼荼羅庭園」です。縁側に座り、ほっと一息ついてお庭の穏やかさと美しい緑と苔を鑑賞します。隅に桜の木がありお寺の方に伺うと、冬に咲く桜だそうです。寒桜でしょうか。

ゆったりとお庭を堪能し、本堂の仏様に手を合わせ、社務所にお礼に行くと「あちらの収蔵庫に十一面観音立像がありますので、見て行って下さい」と。教えて頂き、拝見致しました。良いものを見せて頂き、仏様に手を合わせ盛安寺を後にします。





駅にある桜の木は、春には駅を利用する人たちを楽しませてくれる

盛安寺を後にし、旧道を坂本まで歩いて行きました。道の途中で、私の好きな繭梅が咲いていました。この花は香りがとてもよく、匂いで季節を感じる花の一つです。道沿いに石碑がありゆつくりと歩くまで、この様な石碑があるとは気が付かず、旧道ならではですね。

京阪松ノ馬場駅に立ち寄ります。駅に桜の木が植えてあります。

この京阪石坂線の駅には駅のホームに

松ノ馬場駅

桜が植わっている所が多々あります。何故かは知りませんが、春先や初夏・秋、それぞれに美しく彩られ、通勤・通学途中の慌ただしい時に、ふと季節を感じられます。また、植えてある桜の種類も異なり、滋賀里駅は山桜の系統でしょうか？花と葉が同時にソメイヨシノとは異なる風情があり、緑の葉と、白い桜の対比が美しいです。

桜が散り、駅のホームは花びらの絨毯で埋め尽くされ、それも風情があり素敵です。

また、京阪石坂線沿線には学校も多く、この松ノ馬場駅ならば「比叡山高校」、南滋賀駅ならば「志賀小学校・志賀幼稚園」、別所駅ならば「大津商業高校」等々、まだまだあり、小学生から大学生まで、学生の通学の足ともなっています。車窓から見える各校に桜の木など様々な木が植えてあり、春や新緑の季節には、美しい花・緑に心癒やされます。



旧街道にある趣のある街並み

京阪石坂線は、ホームのみの小さい駅が多いが、通勤・通学や日常の生活、人々の大切な駅で、学生時代や社会人生活、子供達との利用、日々のふとした瞬間など、それぞれに想い出や物語が沢山あります。

松ノ馬場から旧道へ行く道に素敵な家が並んでいました。屋根瓦の美しい、格子のある家々で、庇も深く、白壁がとても素敵です。京阪松ノ馬場駅から旧道へ戻り、最終の日吉大社の鳥居まで、あと少しです。

黄緑・緑・青緑



落ち着きのある街並みだね



松ノ馬場駅から旧街道にある昔ならがらの佇まい



散策途中で見つけた地元を案内する石碑

坂本駅

黄緑・緑・青緑

京阪坂本駅より、日吉大社の参道へ歩きます。この参道の美しさは緑好きの私には堪らない魅力です。木々の緑と、苔の緑、穴太衆積の石垣に年月を経て生えている苔。

この春は、普段非公開の里坊の庭園も訪れました。里坊のお庭は春と秋の観光シーズンに幾つか公開されており、今回



新緑の美しい日吉馬場



苔が美しく静かな時が流れる律院の庭。お参りの方のみ拝観できる

は、「律院」のお庭です。

「曲流回遊式」の庭園で、「保科寺宗秀」の作とのこと。静けさの中に清流が流れ、石の配置と木々の配置、植栽の松のコンパクトな枝ぶりが何とも言えず美しく、苔もきれいです。律院のお庭を、約20分ほど静かに堪能しました。

「律院」の落ち着いた、美しい庭を楽しむ参道に戻ります。ぶらぶら歩き、春と秋限定で臨時に出店されるお店のお蕎

麦を食べに行きます。これも坂本観光の

楽しみの一つです。その後、坂本観光の中でも人が少ない「滋賀院門跡」と私のお気に入りの場所である「慈眼堂」へ、初夏の陽射しを浴び、気持ちのいい緑の中を歩きます。参道を離れ、横道に入り、木々の緑に心踊りながら、滋賀院門跡に。旧道から滋賀院門跡への道は「御殿馬場」といい、この道も桜、緑、紅葉が美しく、好きな道の一つです。

また、「滋賀院門跡」から「慈眼堂」へ行く道はとても素敵な小道で、鮮やかで様々な緑の中、石段を登ります。ボランティアガイドさんに教えてもらってから大変気に入り、必ず訪れる「慈眼堂」。あまり知られていませんが、この慈眼堂の西側には大きなモミジの木があります。

石段を登るとそこは、苔の緑と木々の緑が美しく、とても静かな「慈眼堂」です。慈眼堂を後にし、参道に戻ります。帰

る前にもう一度、あのお蕎麦を頂きます。春の桜の季節、秋の紅葉の季節、春の枝垂桜の季節、初夏の緑の季節、盛夏の季節。年に幾度も訪れますが、この初夏の新緑の時期と、枝垂桜の時期は格別です。

秋の紅葉の季節も有名で綺麗ですが、この初夏の陽射しと、木々の新芽の緑の美しさと、風薫る爽やかな穏やかな時期の季節がとても好きです。

実際に体感しなければその雰囲気や美しさ静けさなどは伝わらないものです。ぜひ京阪石坂線に乗り訪れてみてください。



滋賀院門跡から慈眼堂へと続く石段

優秀賞

大津市長賞

君への気持ちは、
黄色い線まで下がれない。

鎌田 南帆

（13歳 滋賀県）

大津市長賞

「危険ですから、黄色い線の内側までお下がりください」という定番の構内アナウンスが、うまく使われています。たとえ危険な目に合っても、君への思いは止められないという強い気持ちが、ユニークな方法で表現されました。

（俵 万智）

近江勸学館賞

あなたの駅で降りてみた
同じ景色を見たかった

長谷川 彩香 （20 歳 東京都）

近江勸学館賞

その人のことを、もっと知りたいと思ったら恋の始まり。その人自身ではなく、「見ている景色」を知りたいといつところに惹かれました。ひかえめだけれど、思いの深さがストレートに伝わってきます。七五調のリズムと、シンプリな韻も効いていますね。

（俵 万智）

大津商工会議所賞

駅名を見ただけで、
君との時代に戻る俺

谷本 良裕
（61歳 徳島県）

大津商工会議所賞

定番の待ち合わせ場所だったのでしょうか。それとも学校の最寄り駅？ 他の人には、なんでもない駅名が、スベシャルな思い出とともに蘇る……。『時代に戻る』という表現が、力強くいいなと思いました。

（俵 万智）

京阪電鉄賞

また会えた
約束なしで会える場所

h a g u m i (44 歳 滋賀県)

京阪電鉄賞

「駅」という言葉を使うと、みんなに駅というものの特徴を表しています。最寄り駅が一緒なら、常にその可能性はあるわけで、駅がわくわくする場所になっているのも、いいですね。

(俵 万智)

入賞作品

しゃべらない時間に
ことばがギッシリ詰まる

大家 涼

（24歳 神奈川県）

皆にとっては普通の駅、
私にとっては魔法の駅

勝見 楓

（14歳 滋賀県）

冬の駅、
手づくり座布団に故郷の母おもいう

角 卓也

（55歳 滋賀県）

駅の伝言板の
「待ってます」はまだ有効ですか

川平 陽子

（57歳 宮崎県）

走る君
私の心に駆け込み乗車

工藤 征太郎

（18歳 滋賀県）

降りてく君の落し物
気づいたけれど 明日渡すね

流れる景色、
揺れる思い、止まる時間

卒業の日。

次の駅に着く前に、言わなくちや

「さよなら」と

改札に通す私の両想い切符

さよならだけと言わないよ
一言わざと忘れ物

「穴太駅」が読めちゃうのは、
君のせいだよ。

久保はるな
(14歳 滋賀県)

栗邊 綾実
(18歳 福岡県)

高祖 茉実
(17歳 佐賀県)

小森 蓮華
(13歳 滋賀県)

坂口 望那
(14歳 東京都)

竹千代
(32歳 千葉県)

今通過したこの駅も、
きつと誰かの大切な場所

月館 陽香

（17歳 滋賀県）

改札通って減る残高、
あなたへの思いが貯まる

仲川 愛鈴

（16歳 滋賀県）

スマホがなくてもよかった
きみを駅で待つ昭和

中川 潔

（53歳 福井県）

ガタンゴトン ガタンゴトン
ガタンゴトン ムゴン

成田 すず

（37歳 沖縄県）

「この先揺れます」
君への気持ちを予告され

福井 識章

（42歳 神奈川県）

忘れ物ない？
今でも言う母 親子も線路も続く

丸山 香織

（19歳 宮崎県）

審査風景から

最終審査員は俵真智さんをお願いしていますが、それまでの数次の審査は地域の有識者の方たちをお願いしています。その感想をご紹介します。

 「私のことばで」。応募者の年齢層が本当に多岐にわたり、その人たちの「青春」が押し寄せて来たという思いです。にもかかわらず、世代を超えて「青春」に対して同じような思いを抱き続けておられることに深い感慨を覚えました。ただ残念なのは多くの作品で例えば「初恋」が書かれても「かけがいのない私の初恋」が書かれていないように思い戸惑いを持ちました。往々にして言葉に寄りかかってしまい「私の恋」も一般化されてしまうのだろーと思ひます。ここでは誰にも書けない私だけの21文字が欲しい。

(石内 秀典)

 現役中高生から青春時代が遠のいた方まで、幅広い年代の沢山の作品を読ませていただき、世代によって選ぶ言葉は違っても、表現したいことは同じこと？と感じた作品が複数ありました。世代は違えども、共通するものがあるのだなと、改めて感じた次第です。審査の機会を頂いたこと、このような気づきを与えて頂いたことに感謝します。

(大津市副市長 井村 久行)

 青春のど真ん中を走る人、思い出の中の青春を振り返る人。駅・ことば・忘れ物を綴った21文字の作品それぞれには、読者が自分なりの風景を勝手に描けるだけの情感がたっぷりこもっていました。10人いれば10のドラマが、そして21の文字には無限の物語が生まれるのだと、あらためて言葉の持つ力に気づかせてもらいました。

(日本放送協会大津放送局長 丘 信行)

 俳句や短歌とはひと味違う言葉の調子、21文字以内に詰め込まれた情報量に注目して審査しました。日本語の短詩ということで、「5」や「7」に縛られてしまうのが、私たちの悲しいさ。そんな中で少し異質な「6」や「3」を盛り込みながら、なおかつリズムカルに言葉をはばたかせた作品に青春の息吹を読み取りました。小中学生、高校生もストレートに感情をぶつけるだけでなく、なにげない描写の中に複雑な思いがちりばめられ、作者の胸の高鳴りが聞こえてくるようでした。

(毎日新聞大津支局支局長 濱 弘明)

 和歌でも短歌でもない21文字というリズムの自由度が感じられます。青春真っ只中の人、少し前の思い出、遠い昔の思い出など、それぞれのそのときの思いが臨場感たっぷりに表現されているなど感じながら読ませていただきました。同じようなシチュエーションを読んだ歌もいくつかありましたが、限られた文字数の中で表現の工夫が見られたのもよかったのではと思います。

(滋賀リビング新聞社編集長 山本和子)

入選作品

あカンあカンと聞こえる踏切り音 テスト1日目

赤木 夏帆 (18歳 滋賀県)

改札に届く弁当に「おう」しか言えぬ14の夏

あきら (27歳 愛知県)

傘を忘れたふりをして、二人で一つ駅までの道

浅井海 (19歳 神奈川県)

着いたよと 声掛けてもらう 狸寝入り

愛宕平九郎 (44歳 東京都)

里の駅発未来行き 子離れ列車に母涙

有の実 (64歳 新潟県)

この駅で「またね」は「さよなら」だったんだ

飯田 昌久 (60歳 静岡県)

本を読むふりで待ってる 次は君が乗って来る駅

石川 まち子 (69歳 兵庫県)

「この席どうぞ。」私の勇気をためすチャンス

石本 楓莉 (13歳 滋賀県)

「おはよう」を二日分盛って君待つ 月曜日の駅

泉谷 仁志 (54歳 滋賀県)

優しさが時々痛い 例えば貴方の丁寧語

歓喜の声 駅まで届く 夏予選

吊り皮の温もり君の忘れ物そっと重なる左の手

君がいた秋いなかった冬逢いにゆく春

すれ違う電車の窓に書く 君に伝えたいことば

電車来て君の言葉は遮断され唇だけがただ動く

寒い冬 駅で待つ貴方の姿に プラス2度

電車揺れたただそれだけで笑いがおこる

いつもの駅降りる君、心の中でそっと手を振る

忘れたと切符買う君に合わせ、居留守した定期

井田 あさみ (64歳 滋賀県)

井手吉 ひろみ (47歳 滋賀県)

伊藤 茂 (62歳 滋賀県)

太田 楓 (15歳 滋賀県)

太田 祐子 (60歳 静岡県)

岡田 大樹 (13歳 滋賀県)

小川 ともみ (29歳 滋賀県)

奥 亜沙美 (18歳 滋賀県)

奥村 陽 (15歳 佐賀県)

おしんこ (27歳 東京都)

毎朝5時半駅まで送る母の後ろ姿も今日で最後

甲斐蘭七

(23歳 宮崎県)

駅の駐輪場、自転車だけでもあなたのとなりに

各務 奈津美

(43歳 愛知県)

「また逢おう」握手ガッチリ三月の駅

梶政幸

(52歳 千葉県)

揺れる窓から見る湖、僕達の青さは負けてない

金森 柊佑

(16歳 滋賀県)

じゃあねから変えたの気付いた? 「また明日」

岸野 由夏里

(42歳 京都府)

窓からの景色は雨模様君が乗車してきて恋模様

北川 智花

(13歳 滋賀県)

「またあした」もう言えないよ電車通学卒業日

木村 真由美

(31歳 滋賀県)

あの制服に憧れて 初めてつかんだ桜色の切符

熊本 千年世

(31歳 佐賀県)

制服姿に一目惚れ。恋した人は駅員さん。

幸尾 友加里

(17歳 佐賀県)

「好きです」と練習しただけで終わる夏

小次郎

(64歳 山口県)

あのカーブ、二人の距離が一瞬、恋人になる。

小林 和喜

（15歳 滋賀県）

どの駅で見失ってしまったのだろう 君を

駒井 亮太

（14歳 滋賀県）

ハミングが半音上がる 君が待つ駅に近づく

近藤 和子

（87歳 大阪府）

片耳のイヤホンと、君が乗ってた余韻に浸る

さごじょう

（34歳 愛知県）

今日こそは勇気を出すからまだ来ないで次の駅

里井 萌華

（15歳 滋賀県）

隣にいても言葉なく、車窓に写る君と目が合う

島田 滉人

（15歳 滋賀県）

「ずっと一緒」あの日の約束は駅に忘れたまま

志村 優

（17歳 山梨県）

この駅には十五の君、家には五十八の君がいる

東海林 雄一

（58歳 埼玉県）

「一本逃しちゃったね」って君と待てる幸せ

末松 亜弓

（27歳 愛知県）

いつもの駅で降りない君 僕は次の駅 もしかして

諏訪吉蔵

（25歳 東京都）

「忘れ物ですよ。」忘れられないあなたの笑顔

制服が違っても友達でいようね 春の駅

教科書忘れて嬉しくて。君と隣の席だったから

一つだけ空いた席に 三十六度五分の忘れもの

君と同じ傘の下。良くやった、天気予報。

2人の瞳の間にそっとすべりこむ電車の扉

思い出もこの気持ちも改札機の中に消えた

今日、青春に『いいね!』します

彼女乗り、隣にオカン心揺れる参観日の途中駅

超ピンチ!電車で忘れたラブレター見ないでね

青春電車 (26歳 栃木県)

せつな/とわ (59歳 京都府)

仙道 麻里子 (31歳 東京都)

太洋志乃理 (26歳 愛知県)

高島 大暉 (15歳 滋賀県)

高原 久美子 (57歳 富山県)

高谷 知里 (14歳 滋賀県)

竹内 喜一 (40歳 大阪府)

玉井 泉 (64歳 大阪府)

田丸 あづみ (15歳 滋賀県)

駅だけで会える君の名前も聞けずに今日卒業

つる

(26歳 鳥取県)

微笑む君が目で示す、私のための予約席

ティロリン

(27歳 福岡県)

ホームで涙こらえる泥んこのユニフォームたち

豊田 はるか

(29歳 山梨県)

走行音が私の鼓動と一致する 隣の君に言葉出ず

中川 波音

(15歳 長野県)

たった2両の空間に式部も書けない恋がある。

中野 結衣花

(15歳 滋賀県)

いつも自転車乗る君が、駅駆け抜ける雨が好き

西田 麻里

(39歳 滋賀県)

貴方と並んで通過待ち 愛のことばを心待ち

沼田 侑実

(39歳 神奈川県)

10年の時が変えたのは駅前の景色と君の苗字

乗松 雄大

(28歳 東京都)

伝言板にサヨナラと名前が無くても君の文字

早川 斉章

(41歳 宮城県)

風を味方に車窓の君そっと自転車で追いかけた

林原 まゆみ

(37歳 香川県)

同じ駅なんてずるい。ずるいよ、君の同級生。

はらだ

(15歳 神奈川県)

いつもより、切ないさよなら 金曜日。

日笠 心菜

(14歳 滋賀県)

このホームが舞台 君が相手に私が主役

ふくまる

(21歳 愛知県)

白熱灯がこっそり照らす 駅舎の僕ら

前田 彩子

(20歳 大阪府)

改札前目が合った瞬間笑顔になる君が好き

前田 朱里

(17歳 滋賀県)

ことばよりグツときた揺れから守るあなたの手

まお

(23歳 愛知県)

発車ベル。手をふる母に呟く「ありがとう」

まさしお

(35歳 東京都)

電車待つ 駅まで届いた球場の歓声 あの夏想う

松田 幸子

(49歳 滋賀県)

あなたの残した忘れ物、今では私のたからもの

松田 大輝

(15歳 滋賀県)

乗り遅れ 自販機で駅のベンチが 二人のカフェ

美月

(42歳 神奈川県)

改札出ればお迎え傘一本 君と往く幸せな猫背

峯岸メイ

(59歳 大阪府)

電車を降りて君を見て握ったままのラブレター

村田 まどか

(17歳 東京都)

あと一駅 短い時間に小さな勇気 振り絞る

望月 友貴奈

(15歳 滋賀県)

君からのバイバイ、冷凍保存できたらな

もものたね

(41歳 埼玉県)

向かいのホームの君と二人だけの秘密の手話

桃原 天也

(16歳 沖縄県)

落としたきっぷ、彼と同時に手が動く。

山崎 真央

(13歳 滋賀県)

定年の日駅舎に感謝僕と一緒に頑張った40年

横手 敏夫

(63歳 埼玉県)

電車の中の高校生 部活の汗と涙の反省会

余地 恵美子

(49歳 埼玉県)

車内に傘を忘れたのは、君の手を握ったからだ

りのんば

(38歳 東京都)

改札を過ぎた君、振り向くほうにかけてみる

ワオちゃん

(40歳 東京都)

総 評

俵 万 智

全国から、老若男女のたくさんのご応募、ありがとうございました。そんななか、今年 は地元滋賀県の中高生のがんばりが、特に素晴らしかったように思います。テーマが 広がったぶん、内容もバラエティに富んでいました。そして、やっぱり駅は恋の舞台と いう役割が……これはもう永遠ですね。



俵 万智（たわら まち）

歌人・俵 万智

早稲田大学卒。1986年、作品「八月の朝」で第32回角川短歌賞受賞。1987年、第一 歌集「サラタ記念日」を出版、ベストセラーとなる。翌年、「サラタ記念日」で第32回現代歌人 協会賞受賞。2004年 評論「愛する源氏物語」で第14回紫式部文学賞受賞。第四歌集「プー さんの鼻」で2006年 第11回若山牧水賞受賞。歌集の他、小説、エッセイなど著書多数。「文 學界」で「牧水の恋」を連載中。

2006年「沿線に学校が多く青春路線と言える石坂線を活かして、まちづくりに貢献したい」との思いで取り組みを始め、駅の数にちなんで文字数を決めた「21文字のメッセージ」。1年間お休みしましたが、継続してこそ文化であるという強い思いから今回、装いを新たに11回目の募集を行う事になりました。「ことば、表現のリズム」という事由から、沿線にある近江神宮にゆかりの「百人一首の31文字」とも連動。10年の実績を「大津・21」として町の魅力発信に活かすべく、平成29年度大津市協働提案制度テーマ事業に、「新しい文芸表現21文字メッセージ」を核にした新スタイルの観光提案」を提出。採択されて市との共催事業として取り組みました。

●作品募集…今回のテーマは「駅」「ことば」「忘れ物」。電車に限定せずにと
言う思いから「青春21文字」としたのですが、電車、初恋を詠みこむ作品が多いのは、10年を経て21文字Ⅱ電車・初恋とインプットされているのかもしれない。今年の応募作品は4999点、全国47都道府県や外国からの応募もありました。中でも10代の作品が半数以上を占めました。

石坂線沿線の多数の学校が国語の授業として取り組んでくださることも特徴で、どれも鉛筆書きで、消しゴムで消した跡が微笑ましく、今回の最優秀「大津市長賞」も沿線学校の中学生が受賞しました。内容は「恋」にちなんだものが多く、駅は出会いの場として恋と密接に結び付くものなのでしょう。「言い忘れた言葉」など、ことばと忘れ物が関連している作品も多数見受けました。最終審査員は第1回から歌人の俵万智さんをお願いして毎回素敵なコメントをいただきます。教科書に登場する俵さんを選考していただけることが、学校の授業で取り組んでいた呼び水にもなっているのかと思います。

●作品の発表方法…これまでは、優秀作品を電車にラッピングする事がご褒美でしたが、今回は、町のそこで受賞した作品に出会えることを目指しました。31文字の百人一首ゆかりの近江神宮勸学館、電車の駅や車両内、商業施設や公共施設などで、意外なところで「胸キュンの言葉」に出会えるのは嬉しいものです。

●観光面での発信…大津の魅力を全国に発信したいことから、地元の市民ライターたちが、石坂線の沿線の魅力を取材したものを、この情報誌に掲載しています。彼らのSNSによる発信力にも期待しています。全国から集まった作品や、市民力が詰まってきた、作品集も兼ねているこの情報サイトを活用していきたいと考えています。

●市民力の発揮…企業や個人の協力を得る取組もはじめました。この事業主旨に興味を持っていた企業の方と「21文字カフェ」なるものを開催し、賛同を得て、協賛・応援を仰ぐものです。参加いただいた企業のオーナーさんからも「こんな素晴らしい活動を知らなかった。もっと広く知らせるべきだ」「地元企業がシティセールスの一端を担うことは、地元人とのつながりが強まり、地域を盛り上げる企業イメージにつながる」「中高生の参加は、まちづくりにつながる」「社員にも参加させたい」等のお声をいただいています。

行政、市民、企業が三位一体となり「ハレ舞台の創出」と「市民力」を柱として、目指すのは「文化による・品格あるシティセールス」。「ちはやふる」効果ともあいまって、大津の魅力発信の主役として「大津・21」が、ことばによる観光面での起爆剤となることを願っています。

電車と青春21文字プロジェクト代表 福井美知子

- 事業名 / 平成29年度大津市協働提案制度テーマ型提案事業
— 文化（新しい文芸表現21文字メッセージ）を核にした新スタイルの観光提案 —
- 主催 / 電車と青春21文字プロジェクト
URL : <http://www.densyatoseisyun21.com/>
E-Mail : densyatoseisyun21@gmail.com
- 共催 / 大津市
- ライター / 梅沢郁子：大津市在住。趣味は歴史探訪
岡園美千代：大津に生まれ育ちうん十年。趣味は鉄道旅。ブログ執筆
(<http://michiyo0520.blog20.fc2.com/>)
黄緑・緑・青緑：大津市在住・日々の徒然、地域情報等を中心にブログ執筆
(<https://ameblo.jp/kimirodimirodi/>)
木村浩一：大津市内勤務。大津の魅力に取り付かれた元鉄道マン
谷本武弘：大津市在住。趣味は鉄道。京阪大津線を中心にブログ「たけひろ」を執筆
(<http://takehiro-tanimoto.cocolog-nifty.com/>)
新山友希美：大津市在住。子育てのかたわら、まちあるき企画に取り組む
ふくいみちこ：大津市在住。コミュニティをデザインするをモットーにするまち好き女子
- 協力 / びわ湖大津プリンスホテル、西武大津店 他



青春 21 文字メッセージ

2018年2月 発行

著者・発行者 / 電車と青春21文字プロジェクト

制 作 / 滋賀リビング新聞社

※本誌記載の作品の著作権は、主催者に属する。